

2018 年度明治大学 国際化サポート海外留学奨励金報告書

所 属	理工学部 2 年
研修名	短期東南アジア実習 (タイ・ボランティア)

報告書

今回の留学は、村の子供たちと一緒に過ごす時間がとても多くありました。彼らと暮らしたことで言語の壁にとらわれずに国際的な交流をすることが出来たと思います。私には周りに小さい子供や兄弟がいなかったこともあり、村に来たときはうまく接することが出来るか不安だったのですが、ジェスチャーと笑顔を作ることで通じ合い、お互いにコミュニケーションをとることが出来ました。そのときはとても安心し、子供たちの無邪気な笑顔に勇気をもらいました。また、タイ人のインターン生は、日本語学科であったため、私たちの言語に合わせてくれました。私たちは、練習中の片言の日本語でも聞く気がなくなったり聞き取るのを面倒くさがることは全くありませんでした。今までは自分が片言の英語を聞き取ってもらう機会しかなかったため、相手はこの英語を聞き取っているのだろうかなど相手の様子を気にしてしまい、日本人以外と会話するのに自信がありませんでした。しかし、両方の立場にたったことで頑張って伝えようとするれば相手もそれに答えようとちゃんと聞いてくれることに気がきました。これからは言葉が通じるか通じないに関わらず、沢山の国の人たちと触れ合い、彼らに自分が知っていること、日本人だから知りえることを教えていきたいと思いました。また、奨励金を受給したことで負担も少なく、有料のオプションツアーに参加する余裕もでき、タイの文化を学び、多くの歴史的な観光場所にも足を運ぶことが出来ました。

写真貼付 (1 枚)

アカ族の村の子供たちの通っている学校

